

経済から世界や個人を見てみると、 意外なことが浮き彫りに！

岡村 薫 熊本学園大学経済学部准教授

学生時代に課題で取組んだ 調査が面白くて、この道へ

学部生の時に課題で出された社会調査のレポートへの取組み。これが私のターニングポイントとなった気がします。地元の産業の変遷を調べるために市役所にて関連する古い資料を見せてもらい、関係者にヒアリングしてとりまとめ、報告したことがとても面白かったです。このときの達成感とやり甲斐が「研究者になりたい」という思いにつながったのです。

当時、関心を持っていた『ODA』など、国際貢献のより良いあり方について論理的に考える手法が学べる大学院を探し、“法”と“経済”の両面から考察することができる新しい大学院大学『大阪大学大学院国際公共政策研究科』を選択し、進学しました。

まだまだ少ない 女性の経済学研究者

「ある社会的目標を持って制定された制度は、果たして人びとや企業に対して、その目標を実現するような行動をとらせているのか」を明らかにし、

その制度の効果を評価することが、私の研究テーマです。例えば、医療費抑制のための医療制度改革として行われた『後期高齢者医療制度』が、本当に受診者を医療費抑制につながるような行動へと導いているかなど、実際の受診行動を通じて検証することを試んでいます。

社会一般で“通説”とされていることは異なる“真実”が見えた時や、人間の本性があぶり出されるような分析結果が得られた時は、気持ちがとても高揚します。この瞬間を得られることが、この仕事の最大の魅力でしょうか。

日本では、経済学の女性研究者が少ないのが事実。経済学の取り扱う分野には、労働・ワークライフバランス・出産・保育・教育といった女性が深く関わる分野も多く存在します。こうした分野に限らず、**女性の視点で社会の現象を経済学的に切り込んでいく**ことは、今後さらに求められると思います。将来、どの分野に進まれるとしても、経済学的なもの見方は必ずや役に立つはず。ぜひこの分野への挑戦をお待ちしております！



地産地消や自然農法で作られたおいしい野菜や肉を食べてもらいたいと企画したゼミ生との食事会



我が子からの母の日のプレゼント。キュウリのぬか漬けと「0と1」をデザインした?! ポシェット



Kaoru OKAMURA

大学教員
（エコノミスト）
競争政策研究センター
公正取引委員会
博士課程
教育学部

様々な人との出会いも自分の人生に大きく関わってきます

One day

4:00 起床 仕事+研究
5:30 家事(掃除・洗濯・朝食・夕飯の下準備)
8:00 保育園登園、出勤
8:30 就業
17:00 終業→帰宅、夕飯の支度
18:00 保育園へお迎えに
21:00 子どもの寝かしつけと共に就寝

◎宝もの
子どもの笑顔、家族
◎リフレッシュ方法
散歩、温泉

profile

おかむらかおる / 1997年山口大学卒業、大阪大学大学院国際公共政策研究科博士前期課程入学、1999年同大学院修了、同大学院後期課程入学(同年7月入籍)、2005年博士号取得、大阪大学大学院経済学研究科研究生、2007年4月公正取引委員会競争政策研究センターにエコノミストとして採用、2009年10月より妊娠のため産前・産後休暇取得、2010年3月同研究センターを退職、4月より熊本学園大学経済学部勤務。



Q.今後仕事を続けていく上での悩みや不安とは？

- 業務の不均衡
- 研究が思うように進まない
- できれば結婚したい
- 育休・産休が取得しにくい
- 第二子を生めるか？(許されるか)迷っている
- どのタイミングで結婚、出産にふみきるか
- 研究資金不足